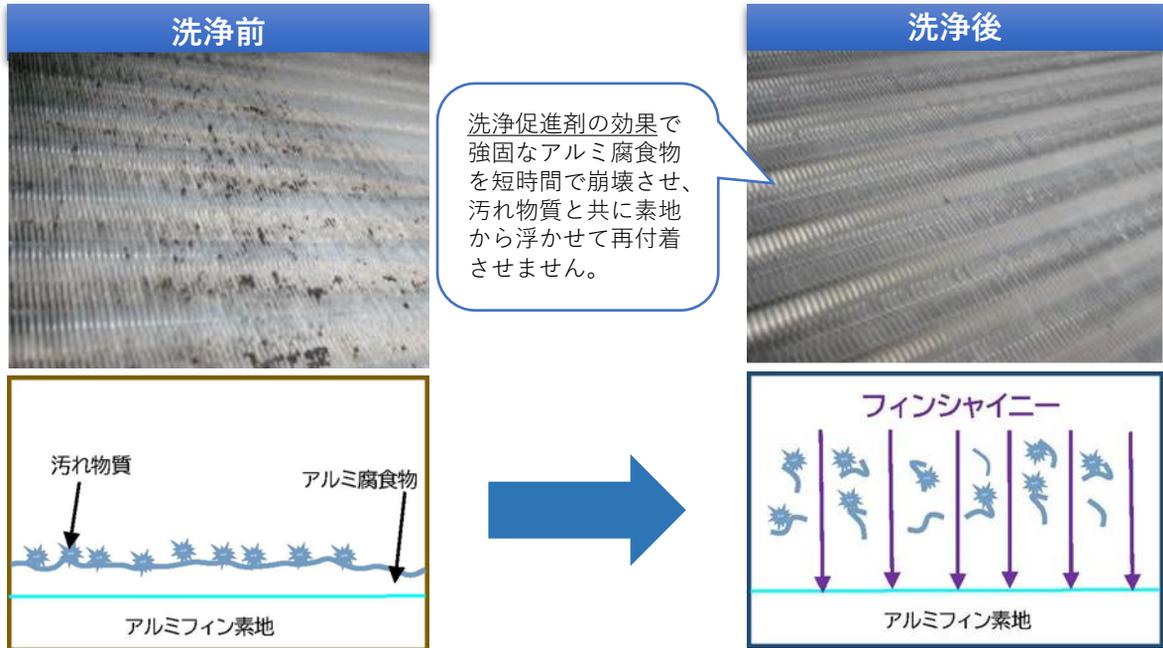


業務用

フィンシャイニー & フィンリンスXX

- ・アルミフィンに堆積した白粉(アルミ腐食物、スケール) や、油、ヤニ、ホコリ等の汚れを除去して熱交換率を改善して電力の浪費を防止します。
- ・洗剤促進剤の効果により短時間で洗浄できます。また冬期の低温時でも優れた洗浄性を発揮します。
- ・除菌・消臭効果があります。
- ・洗浄後にリンス剤を使用する事でアルミフィン表面を中和します。



【使用方法】

- ① フィンシャイニーを10～20倍に水希釈してください。
- ② 電気系統やゴム類等、アルミフィン以外の箇所に洗浄液が付着しないようビニールシート等で養生してスプレーしてください。
- ③ フィンリンスXXをフィンシャイニーと同じ濃度で水希釈し、リンスして中和させます。
- ④ 水で十分にすすぎ、フィンに付着している水が中性であることをpH試験紙で確認して乾燥させます。
(※リンス剤を使用しない場合は多量の水で十分に洗剤を洗い流してください。)

【性状・荷姿】

製品名	フィンシャイニー	フィンリンスXX
用途	洗剤	中和剤
外観	無色透明液体	無色透明液体
pH (原液)	13以上	4.5
荷姿	10Kg (BIB)	4Kg × 4個入り

作業に関する注意点

- ・SDSをよく読んでからご使用下さい。
- ・作業時にはゴム手袋等の防護具を必ずご使用下さい。
- ・身体に付着すると刺激性がありますのでご注意ください。
- ・付着した場合は、直ちに流水でよく水洗して下さい。
- ・腫れや痛みがある場合は医師の手当てを受けて下さい。

株式会社中外技研

〒543-0001 大阪府大阪市天王寺区上本町5-2-11
 上六新興産ビル3階
 TEL : 06-4305-7851 FAX : 06-4305-7852
 Mail : info@chugai-giken.jp Web : www.chugai-giken.jp

安全データシート

1、製造品及び会社情報

会 社 名	: 会 社	株式会社中外技研
	: 住 所	大阪市天王寺区上本町 5-2-11
	: 担当部門	第一開発部
	: 電 話	06-4305-7851
	: ファックス	06-4305-7852
作 成 日	: 2020 年 1 月 10 日	
改 定 日	:	

製 品 名 : フィンシャイニー

2、危険有害性の要約

GHS 分類

【物理化学的性質】	【健康に対する有害性】
火薬類 【分類対象外】	急性毒性（経口） 【分類できない】
可燃性・引火性ガス 【分類対象外】	急性毒性（経皮） 【分類できない】
可燃性・引火性エアゾール 【分類対象外】	急性毒性（ガス） 【分類できない】
支燃性・酸化性ガス 【分類対象外】	急性毒性（蒸気） 【分類できない】
高压ガス 【分類対象外】	急性毒性（粉じん／ミスト） 【分類できない】
引火性液体 【区分外】	皮膚腐食性・刺激性 【区分 1 A】
可燃性固体 【分類対象外】	眼に対する重篤な損傷・刺激性 【区分 1】
自己反応性化学品 【分類できない】	呼吸器感作性 【分類できない】
自然発火性液体 【分類できない】	皮膚感作性 【分類できない】
自然発火性固体 【分類対象外】	生殖細胞変異原性 【分類できない】
自己発熱性化学品 【分類できない】	発がん性 【分類できない】
水反応可燃性化学品 【区分外】	生殖毒性 【分類できない】
酸化性液体 【分類できない】	
酸化性固体 【分類対象外】	特定標的臓器・全身毒性 【区分 1】
有機過酸化物 【分類対象外】	(単回暴露) (呼吸器系)
金属腐食性物質 【分類できない】	
【環境に対する有害性】	
水生環境急性毒性 【分類できない】	特定標的臓器・全身毒性 【分類できない】
	(反復暴露)
水生環境慢性毒性 【区分外】	吸引性呼吸器有害性 【分類できない】

GHS ラベル要素

【絵表示又はシンボル】



【注意喚起語】

危 険

【危険有害性情報】

- ・ 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
- ・ 重篤な眼の損傷
- ・ 呼吸器系の障害

注意書き

[予防策]

- ・ 使用前に取り扱い説明書を入手し、すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 屋外または換気の良い場所でのみ使用し、ミスト／蒸気を吸入しないこと。
- ・ 環境への放出を避けること。
- ・ 取り扱った後、手、顔などをよく洗うこと。
- ・ 指定された個人用保護具（安全帽、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具、保護手袋、保護衣、安全靴など）を使用すること。

[対 応]

- ・ 飲み込んだ場合は、無理に吐かせずに口をすすがせ、直ちに医師の手当てを受けさせること。
- ・ 吸入した場合は空気の新鮮な場所に移して休息させ、気分が悪い場合は医師の手当てを受けさせること。
- ・ 眼に入った場合は水で数分間洗い、コンタクトレンズを着用している場合は可能ならば外して洗浄を続け、医師の手当てを受けること。
- ・ 皮膚（または髪）に付着した場合は、流水／シャワーと石けんでよく洗い、刺激が続く場合は医師の手当てを受けること。
- ・ ばく露又はその懸念がある場合、気分が悪い時は医師の手当てを受けること。
- ・ 衣類にかかった場合は、直ちに全ての汚染された衣類を脱ぐこと。

[保 管]

- ・ 容器を密閉して、直射日光を避け、火気、熱源から遠ざけて、涼しい所／換気の良いところに保管すること。
- ・ 容器を密閉しておくこと。

[廃 棄]

- ・ 内容物／容器を廃棄する場合には、当該法規に従い、都道府県知事に許可された産業廃棄物処理業者に委託すること。
- ・ 使用済みの容器は、他の用途に使用しないで適正に廃棄すること。

3、組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名 : (アルカリ性) 洗浄剤

化学特性 (化学式等)	成分名	CAS 番号	濃度又は 濃度範囲(%)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
NaOH	水酸化ナトリウム	1310-73-2	5%未満	1-410
KOH	水酸化カリウム	1310-58-3	5%未満	1-369
非公開	洗浄強化剤	非公開	非公開	非公開
非公開	界面活性剤類	非公開	非公開	非公開
H ₂ O	水	7732-18-5	非公開	なし

4、応急処置

吸入した場合

直ちに被災者を空気の新鮮な場所に移動させる。被災者を毛布等でおおい、呼吸しやすい姿勢で安静にする。気分のわるい時は医師の治療を受ける。

皮膚に付着した場合

直ちに汚染された衣類、靴などを脱ぐ。皮膚を速やかに多量の水と石鹼で洗う。刺激が続く場合は医師の診断、治療を受ける。洗浄開始が遅れたり、洗浄不十分の場合は皮膚障害のおそれがある。汚染された作業着は作業場から出さないこと。再利用する前に洗濯すること。

眼に入った場合

直ちに清浄な水で30分以上注意深く洗う。その際顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄するとかえって目に障害を起こすことがあるので注意する。まぶたを拵げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。次にコンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し、洗浄を続ける。

眼の洗浄が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。

医師の診断、治療を受ける。

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡する。口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはならない。吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。

直ちに水で薄めた牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。

嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように身体を傾斜させる。嘔吐後、再び水を飲ませる。意識が無いときは何も与えない。医師の診断、治療を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状（本製品に関する情報なし）

参考【水酸化ナトリウム・水酸化カリウムの情報】

【吸入した場合】

- ・ 灼熱感、咽頭痛、咳、息苦しさ、息切れ、肺水腫。症状は遅れて現れることがある。

【皮膚に付着した場合】

- ・ 発赤、痛み、重度の皮膚熱傷、水疱

【眼に入った場合】

- ・ 痛み、発赤、重度の熱傷、かすみ眼、失明の恐れあり。

【飲み込んだ場合】

- ・ 灼熱感、腹痛、ショック又は虚脱

応急措置をする者の保護

- ・ 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

5、火災時の措置

消化剤 この製品自体は不燃性。

当該物質を巻き込んだ周辺火災に適切な消化剤を使用する。

特有の危険有害性

火災中に熱分解し、刺激性又は毒性のガスのヒュームを発生することがある。

本製品は強アルカリ性であるため、消火液に溶け出すと腐食性が強いので、消火する者は保護具を着用する。

特有の消火方法

消火作業は風上から行なう。

周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

周囲の設備等の輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。

消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

本品は金属と接触すると可燃性の水素ガスを発生する可能性がある。

消火を行なう者の保護

有毒ガス等の接触を避けるため消火活動は風上より行い、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク）を着用する。

6、漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は立ち入り禁止。漏洩エリア内に立ち入る時は保護具を着用する。

風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。密閉された場所に入る時は事前に換気する。

保護具及び緊急時措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8、ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。

風上に留まる。

低地から離れる。

環境に対する注意事項

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。環境中に放出してはならない。

除去方法

漏洩物は、ウエス、雑巾、または土砂などに吸着させて空のポリオレフィン製容器に回収後、希酸（希塩酸、希硫酸、酢酸等）で中和して廃棄処分する。漏出物や中和物を直接に河川や下水に流してはいけない。

二次災害の防止策

事故の拡大防止を図るため必要に応じて関係機関に通報する。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。貯蔵、取扱いの場所の床面は、地下浸透防止が出来る材質とする。また、床面のひび割れの無いように管理する。

漏洩処理及び消火作業時に着用すべき保護具

防毒マスク、ゴム長靴、ゴム手袋、ヘルメット、飛散防止用ゴーグル、保護衣、その他適切な保護具

封じ込め及び浄化の方法・機材

危険でなければ漏れを止める。

7、取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

【技術的対策】

- ・ 「8、ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

【局所排気装置・全体換気】

- ・ 「8、ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気装置、全体換気を行なう。

【安全取扱注意事項】

- ・ 使用前に使用説明書を入手すること。
- ・ 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
- ・ 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取り扱いをしてはならない。
- ・ 漏洩すると材料を腐食させる危険性がある。
- ・ 眼、皮膚、粘膜等に触れると刺激、炎症を起こす事がある。
- ・ ミスト・ガス・蒸気・スプレーを吸引しないこと。
- ・ 接触、吸入又は飲み込まないこと。
- ・ この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・ 取り扱い後はよく手を洗うこと。
- ・ 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること

【接触回避】

- ・ 「10、安定性及び反応性」を参照。

保管

【適切な保管条件】

- ・ 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。

- ・ 酸化剤から離して保管する。
- ・ 容器は直接日光や火気を避けること。
- ・ 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。
- ・ 施錠して貯蔵すること。
- ・ 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。

【容器包装材料】

- ・ 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
- ・ ポリオレフィン等(アトロン缶、ケミドラム、内装ポリオレフェンケース)

8、ばく露防止及び保護措置

管理濃度 : 設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会 : 最大許容濃度 2mg/m³ (NaOH として) 2mg/m³(KOH として)

ACGIH : TLV-STEL 2mg/m³ (NaOH として) 2mg/m³ (KOH として)

設備対策

- ・ 洗眼器と安全シャワーまたは水道設備付近で使用する。
- ・ 屋内作業場での使用の場合は換気を行なうか、発生源の密閉化または局所排気装置を設置する。
屋外での取り扱いはできるだけ風上から作業する。

保護具

【呼吸器用の保護具】

- ・ 噴霧して使用する場合は適切な呼吸器保護具を着用する。

【手の保護具】

- ・ 保護手袋を着用する。
- ・ 飛沫を浴びる可能性のある時は、全身の保護衣を着用する。

【眼の保護具】

- ・ 保護眼鏡又は安全ゴーグルを着用する。
- ・ 飛沫を浴びる可能性がある時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用すること。

【皮膚及び体の保護具】

- ・ 状況に応じて保護服、保護長靴、保護前掛け、保護衣、

【衛生対策】

- ・ 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9、物理的及び化学的性質

物理的状态、形状、色など	: 無色透明液体
臭い	: 僅かな特異臭
PH	: 13 以上 (原液) 12.1 (1%水溶液)
融点	: -1°C以下 (凝固点)

沸点	: 100°C以上
引火点	: 不燃性
燃焼又は爆発範囲	: 不燃性
比重	: 1.13(20°C)
溶解度	: 水、メタノール、エタノールに混和する。

10、安定性及び反応性

安定性

- ・ 通常の取り扱いにおいて安定である。
- ・ 空気中の二酸化炭素を吸収しやすい。

危険有害反応性・可能性

- ・ 亜鉛・アルミニウム、スズ、鉛などの金属に対して腐食性を示し、引火性/爆発性気体（水素）を生成する。
- ・ 酸と激しく反応し、中和発熱反応を起こす。
- ・ アンモニウム塩と反応してアンモニアを生成し火災の危険をもたらす。
- ・ ある種のプラスチック、ゴム、被覆膜を侵す。

避けるべき条件

- ・ 日光、熱、空気（炭酸ガス）

混触危険物質

- ・ 強酸、金属（アルミニウム、スズ、鉛など）、水反応可燃性物質

危険有害な分解生成物

- ・ 強熱により酸化ナトリウムと水素を発生する
- ・ 燃焼すると一酸化炭素、窒素化合物などの有毒ガスを発生する。

11、有害性情報

急性毒性	: データ不足により分類できない。
膚腐食性・刺激性	: pH11.5 以上の成分濃度が 1%以上であるため混合物の分類基準に従い区分 1A とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	: pH11.5 以上の成分濃度が 1%以上であるため混合物の分類基準に従い区分 1 とした。
呼吸器・皮膚感作性	: データ不足により分類できない。
生殖細胞変異原性	: データ不足により分類できない。
発がん性	: データ不足により分類できない。
生殖毒性	: データ不足により分類できない。
特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）	: カットオフ値の適用から区分 1（呼吸器系）と判定した。
特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）	: データ不足により分類できない。
吸引力呼吸器有害性	: データがなく分類できない。

12、環境影響情報

水性環境有害性（急性）：データ不足により分類できない。

水性環境有害性（慢性）：水溶液が強塩基となる事が毒性の要因と考えられるが、環境水中では緩衝作用により毒性影響が緩和されるため区分外とした。

13、廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・ 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
- ・ 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託処理する。

汚染容器・包装

- ・ 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14、輸送上の注意

国際規制

国連番号	: 3267
国連分類	: クラス 8 その他の腐食性物質（有機物）（液体）（アルカリ性のもの）
品名	: アルカリ洗剤
容器等級	: II

国内規制

陸上 消防法 : 非危険物

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等が無いことを確認する。
- ・ 転倒、落下、破損が無いように積み込み、荷崩れ防止を確実にこなう。
- ・ 該当法規に従い、包装、表示、輸送を行なう。

15、適用法令

労働安全衛生法 : 名称等を通知すべき有害物 水酸化ナトリウム
水酸化カリウム
腐食性液体（労働安全衛生規則第 326 条）

毒物及び劇物取締法 : 非該当

消防法 : 非該当

化学物質管理促進法（PRTR 法） : 非該当

16、その他の情報

参考文献

- 1) 各原料メーカーの安全データシート

- 2) PATTY (5th, 2001)
- 3) DFGOT vol.19 (2003)
- 4) GHS 国連文書 改訂 2 版
- 5) 容器イエローカード塗料用マニュアル
- 6) GHS 対応 MSDS の書き方
- 7) 国際化学物質安全性カード (ICSC)

記載内容の取り扱い

- ・ 記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性に関しては、いかなる保証をなすものではありません。注意事項は通常の手理扱いを対象としたものであつて、特殊な手理扱いの場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上ご使用下さい。